



CENTRAL 中央自動車工業株式会社

2020年度上半期

決算ハイライト

- 2020年度上半期決算の概要 … 1～4p
- 2020年度上半期の開発型企业としての施策 … 5～9p
- 2020年度通期の目標 … 10～12p

2020年9月／連結決算の概況(2020年4月1日～2020年9月30日)

●連結子会社及び持分法適用関連会社

(※自己株式を除く)

| 連結対象会社 | | 資本金 | 持株比率 |
|----------------|-----------------------|-----------------|--------|
| イ.連結子会社 4社 | セントラル自動車工業(株) | 50百万円 | 76.3% |
| | CAPCO PTE LTD(シンガポール) | 37百万円(50万SDル) | 100.0% |
| | CAPCO USA, INC.(米国) | 90百万円(80万3千米ドル) | 100.0% |
| | (株)ABT | 10百万円 | 100.0% |
| ロ.持分法適用関連会社 2社 | (株)石川トヨペットカローラ* | 195百万円 | 42.7% |
| | エイスインターナショナルトレード(株) | 30百万円 | 39.2% |

*昨年度まで連結対象会社の「旧・石川トヨペット(株)」は、「旧・トヨタカローラ石川(株)」と、2020年4月1日をもって経営統合し、「(株)石川トヨペットカローラ」となりました。

●全社の業績

単位:百万円(要約)

| | 2020年上半期予算 | 2020年上半期実績 | 予算達成率(%) | 2019年上半期実績 | 対前年増減 | 対前年比(%) |
|-----------------|------------|--------------|----------|--------------|--------|---------|
| 売上高 | 11,300 | 11,980 | 106 | 12,000 | △20 | 99 |
| 荒利益 | 4,930 | 5,030 | 102 | 5,200 | △170 | 97 |
| 販売費及び一般管理費 | 3,230 | 3,080 | 95 | 2,440 | 640 | 126 |
| 営業利益 | 1,700 | 1,950(16.3%) | 115 | 2,750(23.0%) | △800 | 71 |
| 経常利益 | 2,100 | 2,260(18.8%) | 108 | 3,010(25.1%) | △750 | 75 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1,300 | 1,470(12.3%) | 113 | 2,880(24.0%) | △1,410 | 51 |

※()内は売上比率

●事業の種類別セグメント／販売実績

| | | 2020年上半期(構成比%) | 2019年上半期(構成比%) | 対前年増減 | 対前年比(%) |
|---------------|------|----------------|----------------|--------|---------|
| 自動車部品・用品等販売事業 | | 9,660(80) | 12,000(100) | △2,340 | 80 |
| うち | 国内販売 | 6,710(55) | 7,460(62) | △750 | 90 |
| | 海外販売 | 2,950(25) | 4,540(38) | △1,590 | 65 |
| 自動車処分事業* | | 2,320(20) | — | 2,320 | — |
| 計 | | 11,980(100) | 12,000(100) | △20 | 99 |

*自動車処分事業は、昨年12月に(株)ABTを連結子会社にすることにより新たに発生したセグメントであります。前第2四半期連結累計期間との比較は行っていません。

連結純利益

単位:百万円(切捨て)

| | 2020年上半期 | 売上比(%) | 2019年上半期 | 売上比(%) | 前年比増減 | 伸び率(%) |
|-----------------|----------|--------|----------|--------|---------|--------|
| 経常利益 | 2,257 | 18.8 | 3,008 | 25.1 | △751 | 75.0 |
| 特別利益 | — | — | 1,061 | 8.9 | △1,061 | — |
| 特別損失 | 116 | 1.0 | — | — | 116 | — |
| 税金等調整前中間純利益 | 2,141 | 17.9 | 4,070 | 33.9 | △1,929 | 52.6 |
| 法人税等 | 673 | 5.6 | 1,159 | 9.7 | △487 | 58.0 |
| 非支配株主に帰属する中間純利益 | 0 | 0.0 | 29 | 0.2 | △29 | — |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | 1,468 | 12.3 | 2,881 | 24.0 | △1,413 | 51.0 |
| 1株当たり中間純利益 | 80円21銭 | — | 159円68銭 | — | △79円47銭 | 50.2 |

■連結貸借対照表

| | 2020年上半期 | 2020年3月期 | 前年比増減 |
|-------------|----------|----------|--------|
| 総資産 | 36,229 | 34,505 | 1,724 |
| 純資産 | 31,198 | 28,120 | 3,078 |
| 自己資本比率(%) | 86.0 | 81.4 | 4.6 |
| 1株当たり純資産(円) | 1,701.12 | 1,535.15 | 165.97 |

連結上半期キャッシュ・フロー計算書の概要(2020年4月1日~2020年9月30日)

単位:百万円(切捨て)

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

| | | |
|-------------------------------|------------------------|--------|
| 税金等調整前中間純利益① | | 2,141 |
| 非資金費用等 | 減価償却費 | 432 |
| | のれん償却額 | 190 |
| | 貸倒損失 | 116 |
| | 退職給付に係る負債(退職給付引当金)の増加額 | 30 |
| | 持分法による投資損益(△は利益) | △220 |
| 非資金費用等による資金調達② | | 548 |
| 営業活動による資金 | 受取利息及び受取配当金 | △61 |
| | 売上債権の減少額 | 368 |
| | たな卸資産の増加額 | △230 |
| | 仕入債務の減少額 | △206 |
| | 未払金の減少額 | △268 |
| | 未払費用の減少額 | △149 |
| その他 | △137 | |
| 営業活動による資金調達③ | | △683 |
| 小計(①+②+③) | | 2,006 |
| その他 | 利息及び配当金の受取額 | 106 |
| | 法人税等の支払額 | △1,362 |
| その他による資金調達④ | | △1,256 |
| (A) 営業活動によるキャッシュ・フロー(①+②+③+④) | | 750 |

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

| | | |
|----------------------|----------------|------|
| 投資活動 | 投資有価証券の取得による支出 | △220 |
| | 投資不動産の賃貸による収入 | 25 |
| | 保険積立金の解約による収入 | 10 |
| | 有形固定資産の取得による支出 | △204 |
| | 無形固定資産の取得による支出 | △5 |
| | その他 | 1 |
| (B) 投資活動によるキャッシュ・フロー | | △393 |

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

| | | |
|----------------------|---------|------|
| 財務活動 | 配当金の支払額 | △514 |
| | その他 | 39 |
| (C) 財務活動によるキャッシュ・フロー | | △474 |

| | | |
|----------------------|--|----|
| (D) 現金及び現金同等物に係る換算差額 | | △4 |
|----------------------|--|----|

| | |
|-----------------------------|-----------|
| 現金及び預金の増減額(△は、減少額)(A+B+C+D) | △122 |
| 現金及び預金の期首残高 | (注) 9,626 |
| 現金及び預金の期末残高 | (注) 9,503 |

(注) 現金及び預金の期首・期末残高には、3ヶ月超の定期預金800百万円を含む。

配当金について

- 配当政策を経営上の重要課題としている当社と致しましては、環境の変化が激しい中でも開発型企业として経営の維持・発展に努め、株主の皆様には「安定かつ高配当」を継続して参りたく存じます。
- 以上の観点から、2020年度上半期は減収減益でありましたが、中間配当金につきましては、第1四半期発表時の予想通り、昨年と同額の一株当たり28円とさせて頂き、期末配当金予想の28円と合わせて、年間配当金を昨年同額の56円とさせて頂きたいと存じます。

配当金の推移

単位:円

| | 2009年 3月期 | 2010年 3月期 | 2011年 3月期 | 2012年 3月期 | 2013年 3月期 | 2014年 3月期 | 2015年 3月期 | 2016年 3月期 | 2017年 3月期 | 2018年 3月期 | 2019年 3月期 | 2020年 3月期 | 2021年 3月期 (案) |
|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------------|
| 中間配当 1株当たり | 8.0 | 8.5 | 10.0 | 10.0 | 13.0 | 13.0 | 13.0 | 13.0 | 16.0 | 19.0 | 22.0 | 28.0 | 28.0 |
| 期末配当 1株当たり | 8.5 | 11.5 | 10.0 | 13.0 | 13.0 | 14.0 | 14.0 | ※ 20.0 (記念配当3.0円) | 19.0 | 22.0 | 28.0 | 28.0 | 28.0 (案) |
| 年間配当 1株当たり | 16.5 | 20.0 | 20.0 | 23.0 | 26.0 | 27.0 | 27.0 | ※ 33.0 (記念配当3.0円) | 35.0 | 41.0 | 50.0 | 56.0 | 56.0 (案) |
| 配当性向 | 35.5% | 31.5% | 29.8% | 33.4% | 31.7% | 32.2% | 34.4% | 35.7% | 29.8% | 30.5% | 29.8% | 26.2% | 34.3% (案) |

(注) ① ※2016年3月期の期末配当金のうち3.0円は、70周年記念配当であります。 ②2021年3月期の「期末」「年間」「配当性向」数値は案。 ③配当性向は、単体ベースで計算。



2020年度上半期
開発型企业としての施策



▲3層のガラス質被膜を更に焼き付け
施工するCPCボディアーマー マキシム



▲3層のガラス質被膜を形成する
CPCスーパープレミアムコーティング エクスG



▲CPCプレミアムコーティング ダブルG



▲アルコール検知器「ソシアク」シリーズ



▲感染対策を行いながら、
総務・人事・経理Weekに出展。
新製品のウイルス対策品も紹介。



2020年度上半期 開発型企业としての施策 / 1

国内での営業活動

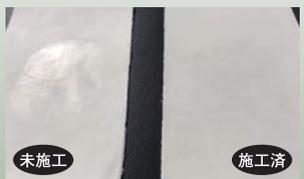
徹底した感染防止対策を行いながら、地域密着型営業を継続するとともに、
高付加価値商材および新商品の拡販に注力いたしました。
また、中之島R&Dセンターを活用した新規商材の開発に努めました。



本革シートの劣化などを防ぐ新製品CPCレザーコーティング▲



NEW



未施工

施工済



NEW



▲アルコール検知器の洗浄にも最適な
ウイルス対策の新製品CPCエール



▲抗ウイルス効果も発揮する車内環境保護システム
C.A.W 抗菌・防臭チタニア



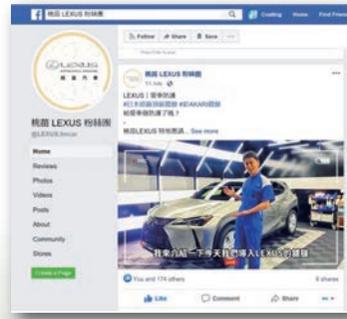
▲研究開発施設「中之島R&Dセンター」



2020年度上半期 開発型企业としての施策/2

海外での営業活動

海外部門では、オンラインを活用して、海外現地社員との連携を強化するとともに、積極的に得意先へのリモート営業も行い、現地状況の把握とビジネスの展開に努めました。



▲台湾で現地のお得意先と連携し、SNS上で当社製品の動画広告を展開。



▲ベトナムで現地採用したスタッフを国内で教育・研修。



▲海外拠点と連携し、リモート会議等を拡充。





▲CPCブランドの生産工場「セントラル自動車工業株式会社」



2020年度上半期 開発型企業としての施策 / 3

関連会社の状況

セントラル自動車工業株式会社は、受注台数の減少がみられたものの、
当社の主力商品の1つであるCPCブランド商材の生産と
新規ブランド商材の量産化にも迅速に対応いたしました。

また、株式会社ABTは、新型コロナウイルスの影響により取扱台数が前半は大きく落ち込んだものの、
6月以降は社会・経済活動の再開等による受注台数の回復傾向がみられるなか、
業務を円滑に行い、安定した事業運営を行いました。



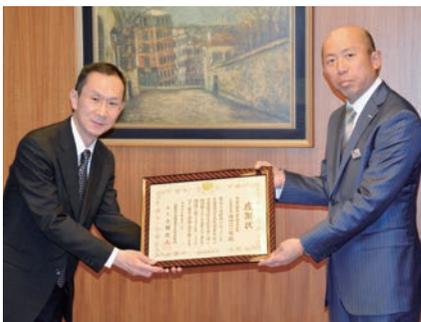
▲昨年12月に完全子会社になった「株式会社ABT」

社会貢献活動の一例

弊社では自動車業界に身を置く者の責務として、交通事故を1件でも無くしたいとの思いからアルコール検知器「ソシアック」を開発。また「社会に貢献する」との企業理念のもと、様々なCSR活動を実践・継続しています。

交通事故被害者への援助

- (財)交通遺児等育成基金に、会社及び社員の善意金を寄付。
- またソシアックの売上収益の一部寄付を継続中。



その他、啓蒙活動や教育活動、スポーツ活動への協力

- FMラジオ局の飲酒運転防止活動への協賛。
- 交通安全啓蒙映画等への協賛。
- 財団法人全日本交通安全協会へ、交通安全教育用としてソシアックを寄贈。
- 全国マスコミへの取材協力、各種シンポジウムへの協力。
- 財団法人アジア福祉教育財団への継続的な寄付。
- JPA日本パラ陸上競技連盟へのオフィシャルパートナーとして協賛。





2020年度通期の目標

(企業理念)

世界のネットワークを通じて環境にやさしく、
安全と豊かなカーライフを創造して、社会に貢献する。

(基本方針)

1. お客様の潜在ニーズを読み、期待を上回る新しい商品・サービスの開発を通じて需要を創造します。
 2. 全てのお客様・お取引先様への感謝の念を忘れず、徹底したサービス体制を通じて、信頼とお役に立つ中央を目指します。
 3. 役員・社員の能力と生活向上を通じて、社会的責任を果たす開発型企業を目指し、株主様には安定かつ高配当を継続いたします。
-

(基本戦略)

1. 常に技術革新を追究し、お客様に感動頂けるオンリーワンの「開発型企業」を目指します。
 2. 経営資源を当社の強みの部門と、新しい事業開発に投下し将来の礎を築くと共に、開発型企業の基盤を強化します。
 3. 徹底した現場訪問と情報収集の強化をはかり潜在ニーズの先取りをします。
 4. 教育体制の充実と共に役員・社員は自己成長に努めます。
-

2020年度通期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

単位:百万円

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 1株当たり当期純利益 | 配当予想 |
|------------|---------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|------------|---|
| 2020年度通期目標 | 24,800 (96%) | 4,200 (84%) ※売上比 16.9% | 4,800 (90%) ※売上比 19.4% | 3,100 (80%) ※売上比 12.5% | 169円 20銭 | 第2四半期末 28円 期末 28円 合計 56円 配当性向34.3%(単体) |
| 2019年度通期実績 | 25,940 (119%) | 5,020 (116%) ※売上比 19.4% | 5,360 (113%) ※売上比 20.7% | 3,870 (114%) ※売上比 14.9% | 213円 81銭 | |

()内%表示は、2020年度通期が対2019年度通期、2019年度通期が対2018年度通期伸率。

今後のわが国経済は、経済活動の段階的な再開による景況感の好転が期待されるものの、新型コロナウイルスの感染再拡大の懸念に加え、

米中の政治不安や欧州における経済不安が顕在化しており、不透明な状況が続くと予想されます。

こうした状況下、当社グループは、今後の感染状況や市場環境を見極めながら、新たに発生する市場ニーズに迅速に対応すべく

「中之島R&Dセンター」を活用した新商品の開発と、

地域密着型営業のさらなる強化を目的とした国内外の営業拠点および人員体制の拡充に努めてまいります。

また、連結子会社を含めたグループ全体の連携を一層強化し、新たなビジネスモデルや新規事業展開に引き続き挑戦してまいります。

そして、それらを担う人材を育成する教育体制の更なる強化と、働き方改革への対応や業務効率化を実現した労働環境の整備を推進し、

営業力および組織力の向上を図ることにより、新しい需要を創造し、

社会に貢献できる開発型企业として株主の皆様のご期待にお応えする所存でございます。

何卒一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。